

那覇市定着の特定外来生物ハヤトゲフシアリ防除について ー産学官連携の取組により、抑え込みに成功ー

2024（令和6）年5月17日（金）

環境省 沖縄奄美自然環境事務所 所長 北橋義明 担当：吉村正志 Tel: 098-836-6400	沖縄総合事務局 道路管理課 南部国道事務所	沖縄県 環境部 自然保護課	那覇市 環境保全課
沖縄科学技術大学院大学 (OIST) メディア連携セクション 098-982-3447	琉球大学	住化エンバイロメンタルサイ エンス株式会社	在沖米陸軍

2020（令和2）年8月から、国道331、332号沿いで産学官連携により防除に取り組んできた特定外来生物ハヤトゲフシアリについて、今般検出ゼロが連続2年に達し当該地域における本種の**抑え込みに成功**したため、防除区域にかかる制限をいったん解除して、周辺地域と同等の通常監視体制に移行することとしました。今回の成果は、外来種対策における早期発見と早期対応および、様々な組織の横断的な協働の重要性を示しています。

2024(令和6)年5月23日14時30分より、防除区域の注意喚起看板を取り外します。また、現地に関係者が集合してそれぞれが実施した防除の取組を再現、紹介します。当日取材をご希望される場合は、取材申込書を5月22日12時までに下記4.取材情報の担当者までご一報ください。

1. 背景

ハヤトゲフシアリ（図1）は南ヨーロッパが原産とされる黒いアリで、本来沖縄に生息しない外来種です。人を直接刺すなどといった被害はないものの、生態系への被害が懸念されています（QRコード参照）。日本国内では2017年に名古屋市で定着が初めて確認されて以降、国内数箇所でも確認され、2020年に特定外来生物に指定されました。沖縄では2020年（令和2年）2月に那覇軍港に隣接する国道331、332号歩道側2kmにわたって特定外来生物ハヤトゲフシアリの定着が県内で初めて確認され、その後那覇新港コンテナヤードフェンス沿いでも定着が確認されました。

ハヤトゲフシアリはひとつのコロニーに多数の女王アリを含み、わずかな刺激で簡単に巣を移動してしまうこと、餌の好みが安定せず、市販のアリ用ベイト剤にもあまり誘引されないこと、沖縄県内には外見が酷似したアリ類が生息すること、そして当該地域の歩道の地下深くに広がるとみられる巣に対する、巣口からの液剤散布処理の効率性など、防除や生息状況調査にあたり多くの課題がありました。

2. 取り組みと成果

2020年（令和2年）の沖縄県内定着初確認直後から、県内ヒアリ監視体制の構築経験

を活かした情報共有体制のもと、役割分担に基づく協働体制を整備し、根絶を目指す方針を共有しました(図3)。まずは沖縄科学技術大学院大学(OIST)と琉球大学昆虫学研究室が協力し、住化エンバイロメンタルサイエンス株式会社から昆虫成長制御剤の提供を受けて、環境負荷が少ない新たな防除技術を開発しました。2020年(令和2年)8月からは、那覇市も参加して現地で防除作戦と効果測定モニタリングが開始され、2ヶ月ほどで大幅な生息エリア縮小に成功しました。翌2021年(令和3年)の春から夏にかけて国道沿いでは気温上昇に伴い一時的な増加が見られましたが、そのピーク後は再び低密度化を実現し、那覇新港では2021年(令和3年)6月以降、2022年(令和4年)2月に検出ゼロを達成しました。その後国道沿いおよび那覇新港双方でハヤトゲフシアリの確認はありません(図2)。国道2kmエリアおよびコンテナヤードを含む港湾および空港周辺地域の外来アリモニタリングは環境省および沖縄県が、そして国際コンテナヤード内の監視是那覇港管理組合が実施しており、こちらでも検出ゼロを継続して確認しています。さらに、国道での防除開始に歩調を合わせて約8ヶ月後から始まった在沖米陸軍による那覇軍港内の防除でも、順調にその検出数を減少させ、検出ゼロを記録するまでに低密度化しています(図4)。また国道沿いでの防除作戦の期間中には、人為的な二次拡散を防止するため、南部国道事務所による注意喚起看板の設置や植栽事業調整、同事務所および沖縄県、那覇市による植物残渣や残土の殺虫処理等の措置が実施されたことも、今回の県内ハヤトゲフシアリの抑え込みに大きな役割を果たしました。

3. 根絶に向けての今後

那覇新港に続き、那覇市の国道沿いにおいても検出ゼロを連続2年以上にわたり達成しました。このため、これまで設定していた国道沿いの防除区域にかかる制限をいったん解除し、今後、当該区域では、沖縄県が他の外来アリ類と同様の定期監視モニタリングを実施します。那覇軍港内では引き続き残存コロニーの防除や再侵入の監視を継続し、沖縄県全域からの根絶達成を目指します。また、県内で新たにハヤトゲフシアリが発見された場合に備えて防除マニュアルを作成し、今後も迅速な対応がとれるよう体制を維持します。

参考：ハヤトゲフシアリ。英名 Browsing ant と呼ばれる、働きアリの体長 2.5~4mm の黒いアリ。原産は南ヨーロッパとされるが、オーストラリア、グアム、台湾などへの人為的侵入が知られている。オーストラリアでは、日本同様に環境に与える悪影響の大きい外来種として防除対象になっている。



ハヤトゲフシアリについて(PDF)



図1. ハヤトゲフシアリ *Lepisiota frauenfeldi*
画像提供: OIST OKEON 美ら森プロジェクト

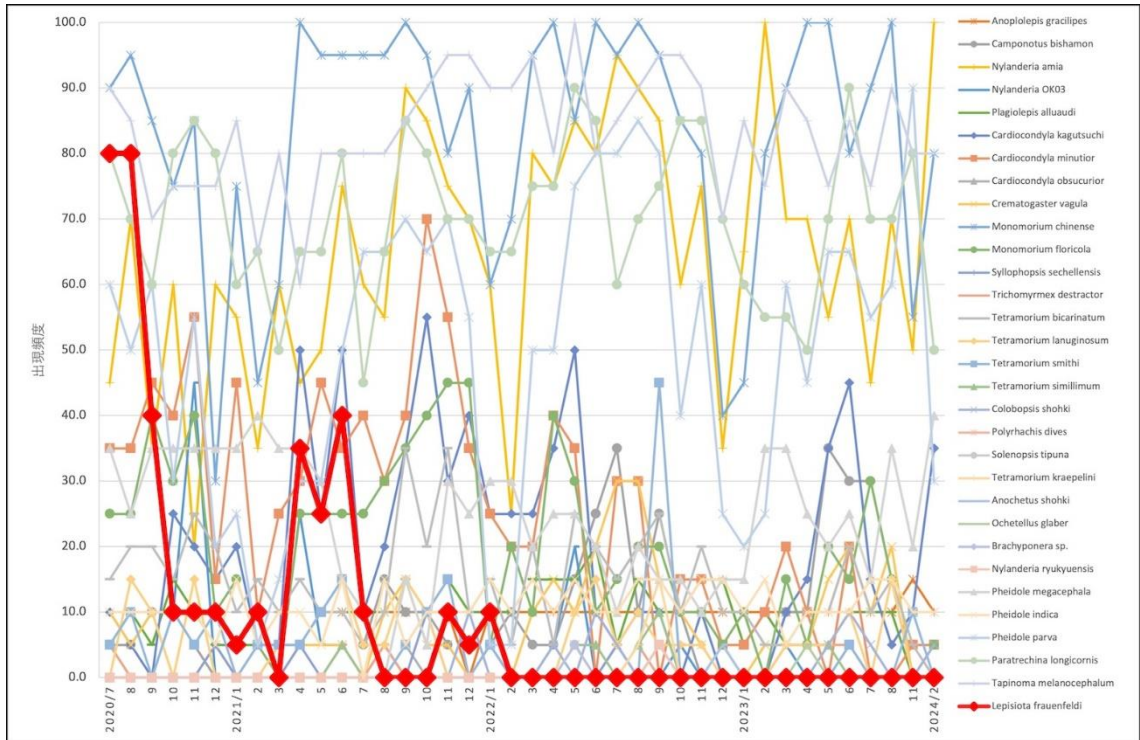


図2. 国道沿い防除エリア内の各種アリ類の出現頻度の推移。2020年8月より防除用ベイト設置開始。赤線がハヤトゲフシアリの出現頻度。

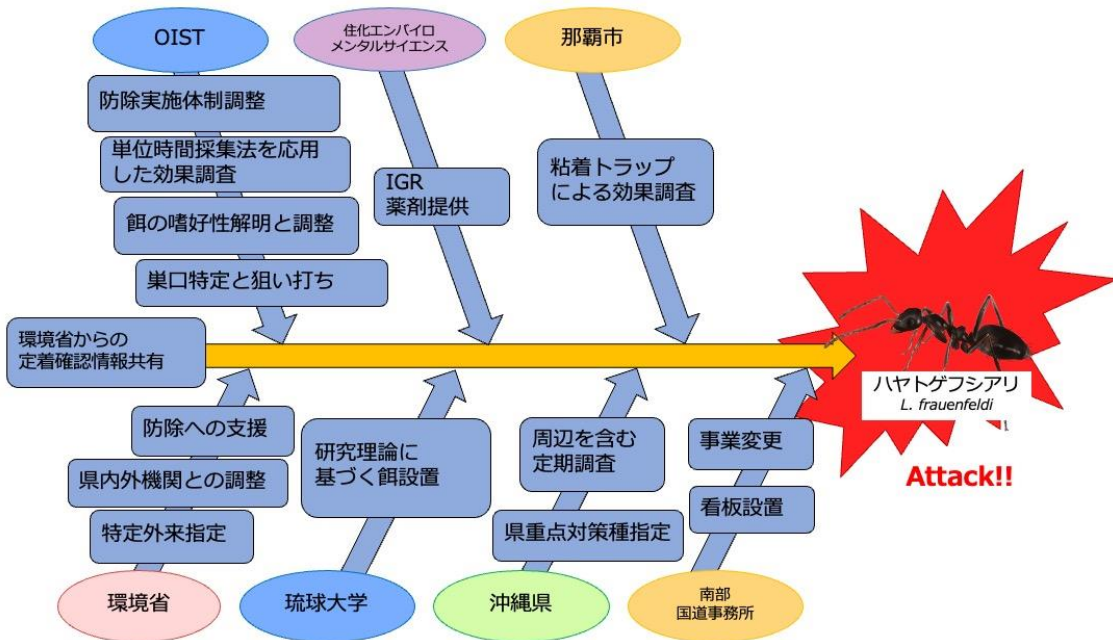


図3. 国道沿いハヤトゲフシアリ防除作戦における、組織横断的な協働体制。那覇新港の場合には、那覇港管理組合および環境省、沖縄県がコンテナヤード内とその周辺の調査を担当。

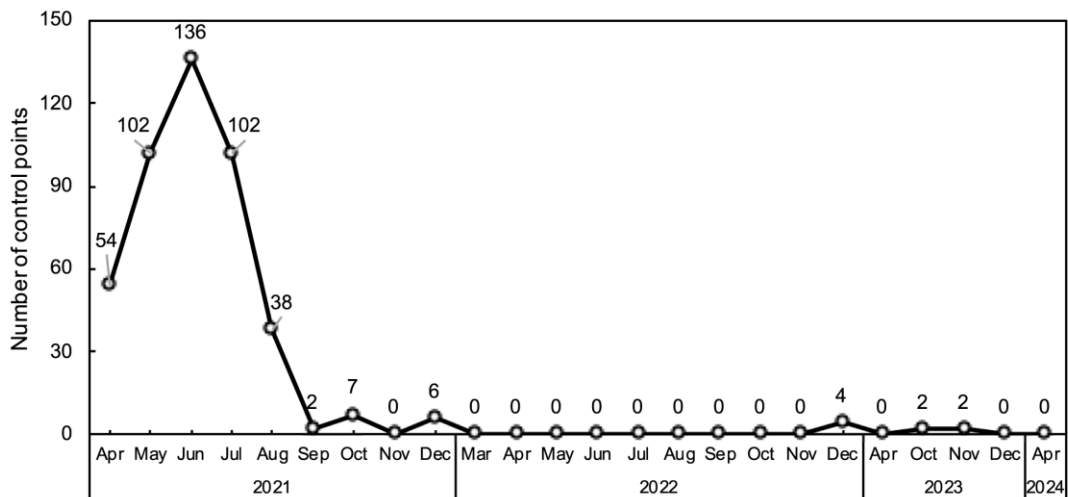


図4. 在沖米陸軍実施の那覇軍港内防除事業における、ハヤトゲフシアリ防除地点数の推移。この地点数はハヤトゲフシアリの検出地点数を反映している。まだ根絶には至っていないものの、検出数は順調に減少している。

4. 取材情報

[取材ご希望の場合、【別紙 取材申込書】を5月22日12時までに送付してください]

集合日時：2024（令和6）年5月23日14時30分より

集合場所：国道331号332号合流付近（写真）

内 容：(1)防除区域の注意喚起看板の取り外し。
 (2)関係者によるそれぞれの主体が実施した防除の取組を再現、紹介。



別紙

令和6年5月 日

ハヤトゲフシアリ防除現場
取材申込書

会社名	
申請者名	
住所	〒
連絡先	電話番号 ^{※1} ： FAX 番号： メールアドレス：

※1. 当日連絡のつく電話番号をご記入ください。

【提出先】

環境省沖縄奄美自然環境事務所野生生物課 福永 宛て

メールアドレス：NCO-NAHA@env.go.jp

FAX: 098-836-6401